

2026 年度 慶應義塾大学 一般選抜  
法学部 地理歴史(世界史)  
出題意図および解答(解答例)

<出題意図>

問題 I

古代から近代までの世界各地における税制およびそれに関連した事象や人物を対象とし、諸制度の特徴や変遷、地域間の多様性と共通性に関する基本的な知識や思考力を問う問題である。

問題 II

「漢字圏」としての東アジアにおける国語とナショナリズムの関係について論じた文章を手がかりに、広域共通語や地域語、そしてそれらの文字の果たした役割や、アジア圏における支配と従属のあり方など、歴史における異質なものの出会いの帰結と、時期や地域をまたいだ共通性に対する理解を問う問題である。

問題 III

トルコ系王朝および 16 世紀前半までのオスマン朝に関する知識を問う趣旨の問題である。記述式問題では、イエニチェリやシパーヒーといった用語だけでなく、それぞれの特徴や、軍役の制度的根拠に関する知識を求めた。問題文から解答の条件を正確に読み取る力も問われている。

問題 IV

ヨーロッパにおける主権国家体制確立以降の初期近代から近代に至る主要な出来事について、スペイン、イギリス、フランスに加え、プロイセンやオーストリア、オランダの動向をふまえて理解ができているかどうかを問う問題。[設問 6] では、17 世紀のアジアをめぐる利害関係に絡んだイギリスとオランダの動きと、名誉革命で同君連合を結ぶことになる両国の関係を簡潔に説明できるかを問うた。

<解答(解答例)>

問題 I

(1) (2)	01
(3) (4)	03
(5) (6)	02
(7) (8)	01
(9) (10)	04
(11) (12)	03
(13) (14)	04
(15) (16)	03
(17) (18)	02
(19) (20)	01
(21) (22)	02
(23) (24)	01
(25) (26)	04

問題 II

(27) (28)	01
(29) (30)	01

(31) (32)	04
(33) (34)	03
(35) (36)	01
(37) (38)	01
(39) (40)	02
(41) (42)	02
(43) (44)	04
(45) (46)	03
(47) (48)	04
(49) (50)	01

### 問題Ⅲ

(51) (52)	03
(53) (54)	02
(55) (56)	16
(57) (58)	04
(59) (60)	02
(61) (62)	01
(63) (64)	04

#### [設問 5] 解答例

1 つはシパーヒーと呼ばれるトルコ系騎兵であり、もう 1 つはイエニチェリと呼ばれる歩兵常備軍である。シパーヒーは、征服地の農地の徴税権を与える見返りに軍役に課すティマル制に基づき、軍役に就いていた。これに対し、イエニチェリは、征服地のキリスト教徒の奴隷の若者を兵士として徴発するデヴシルメという制度に基づき軍役に就いていた。シパーヒーの衰退の背後には、戦闘における火器の重要性の増大が挙げられる。(197 字)

### 問題Ⅳ

(65) (66)	05
(67) (68)	03
(69) (70)	03
(71) (72)	03
(73) (74)	08
(75) (76)	05
(77) (78)	06

#### [設問 6] 解答例

オランダは東インド会社を設立してジャワ島の A バタヴィアを拠点に東南アジアに進出し、B アンボイナ事件で C マルク諸島からイギリスの勢力を排除して香辛料貿易を独占した。また、D 台湾を領有して鎖国下の日本との交易の中継基地とした。オランダの中継貿易に打撃を与えようとイギリスが 1651 年に航海法を制定したことでイギリス＝オランダ戦争が起きたが、イギリスでは 1689 年に名誉革命によりオランダ総督オラニエ公ウィレムと妻メアリが共同で王位に就き、イギリスとオランダの同君連合体制が成立した。(239 字)